



宇治田原町教育委員会広報

宇治田原町の教育

発行 令和3年11月
宇治田原町教育委員会
(宇治田原町役場学校教育課)

宇治田原町立川坂口18-1
TEL (0774) 88-6612
(ホームページ <http://www.town.ujitawara.kyoto.jp>)

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の分析と 学力向上に向けた取組について

宇治田原町は、「人がつながる 未来につながる まちぐるみの教育」を理念とし、確かな見通しを持って主体的に生き抜く、創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指しています。特に、学校教育においては、「夢に向かって自ら学ぶ人」、「人とのつながり（絆）を大切に作る人」、「誇りを持ってふるさとを語れる人」という「育てたい子ども像」の実現のために、義務教育9年間を見通し、発達の段階に応じた計画的、継続的な指導を行い、「基礎・基本の定着と学力の向上」、「規範意識の醸成による学習・生活習慣の確立」、「学びに向かう力、豊かな人間性の育成」を目指す教育に取り組んでいます。

さて、本年5月、2年ぶりに全国学力・学習状況調査が実施されました。その学力調査や意識調査の結果、学力向上に向けた取組についてお知らせします。ホームページ上で公開することにより、対象学年の児童生徒や保護者のみなさまだけでなく、宇治田原町にお住いのすべての方々に児童生徒の状況をお伝えし、「まちぐるみの教育」に活かしていくことが重要であると考えています。

- | | |
|------|--|
| ○実施日 | 令和3年5月27日(木) |
| ○受検者 | 宇治田原町立小学校第6学年児童・・・・・・・・69名
宇治田原町立中学校第3学年生徒・・・・・・・・70名 |



1 小学校の学力状況

(1) 国語について

宇治田原町の児童の国語の正答率は、全国平均とほぼ同じです。学習指導要領の内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」に関する問題の正答率は全国平均より低いのですが、「書くこと」と「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題の正答率は全国平均を上回っています。

ア 子どもたちに付けたい力

- ・文章の構成を理解し、内容についての確に捉える力
- ・図や絵などの資料を読み取り、文章と結び付けて考える力
- ・自分の考えを整理し、根拠を明確にするなど論理的に考え、文章にまとめる力
- ・「50字以上70字以内」など字数制限等の条件に則って、考えをまとめ表現する力

イ 学力向上のための手立ての例

- ・今回の調査では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国平均を上回る正答率を得ました。この結果は、新出漢字の指導を中心にスタンダード化

した指導を行う「モジュール授業」によるものと考えます。今後、この指導方法の効果検証を行うとともに、さらに充実した指導方法の工夫を行う必要があります。

- ・ あらすじをつかませたり、中心となる語句や文章に注目して要約させたりすることによって、大きなくくりで文章を捉えさせる指導が重要です。
- ・ 知識を入れる（インプット）だけでなく、学びを振り返り表現する（アウトプット）ことによって、知識を客観的に捉えさせる指導が大切です。
- ・ 字数制限やキーワードを使用するなど、条件付けの文章を書かせる指導を、低学年から系統的に行うことが求められます。

(2) 算数について

宇治田原町の児童の算数の正答率は全国平均をやや下回っています。学習指導要領の内容別に見ると、「測定」や「変化と関係」領域に関する問題ではほぼ全国平均と同じ状況でしたが、「数と計算」、「図形」領域に関する問題での失点が大きく影響しました。

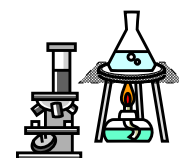


ア 子どもたちに付けたい力

- ・ 基礎基本の知識や技能を確実に習得し、活用できる力
- ・ 数学的な事象について、論理的に物事を考え、的確に説明する力
- ・ 解題するのに必要な資料や要素を選び活用する力

イ 学力向上のための手立ての例

- ・ 小数や分数など複雑な数値を簡単な数に置き直して考えさせたり、問題内容を理解させるのに具体物を示したりすることが効果的です。
- ・ 算数の知識や技能を使うことによって、実生活が豊かになることを理解させ、算数のよさに気付かせ、日頃のくらしに活かそうとさせることが大切です。
- ・ クイズ形式で問題を解かせたり、計算大会などで競わせたりすること等によって、算数に対しておもしろさや親しみを感じさせるようにすることも効果があります。
- ・ 学習の振り返りや反復学習などにより、算数の知識や技能を確実に定着させるとともに、多様な問題に取り組ませることによって、応用力を身に付けさせることが重要です。
- ・ 算数に関係した図書の充実や学習の振り返りができる掲示物の整備など、日常的に算数に触れ合える校内環境を整える必要があります。



2 中学校の学力状況

(1) 国語について

宇治田原町の生徒の国語の正答率は全国平均を下回っています。学習指導要領の内容別に見ると、特に「話すこと・聞くこと」と「書くこと」に関する問題での失点の影響が大きく出ました。また、問題別に見ると、記述式の問題を苦手とする生徒が多くいたことがわかります。

ア 子どもたちに付けたい力

- ・ 根拠を明確に考えをまとめるなど論理的に思考する力
- ・ 文章表現に興味を持ち、一見難解そうな文の読解にも根気強く取り組む力
- ・ キーワードを文章に盛り込んだり、字数制限を意識して作文したりするなど条件に則って文章表現をする力
- ・ 様々な言い回しに慣れ親しんだり、文章表現の豊かさや美しさに触れたりすることによって高まる日本語のよさを感じ取る力

イ 学力向上のための手立ての例

- ・ 漢字の確実な習得や語い量の増加によって、言語力や読解力の向上につなげることが求められます。
- ・ 語い量を増やしたり、多様な文章表現に触れさせたりするために、読書量を増やさせたり、辞書の活用を図ったりすることが大切です。読書につい

ては、段落相互の関係が見やすく読み返ししやすい紙媒体の書物、また辞書についても探したい言葉に行きつくまでに、それ以外の言語の知識が目に入る紙ベースの辞書が効果的であると考えます。

- ・考えを整理し、論理的に自分の考えを組み立てていくために、書いてまとめる学習を進めることが大切です。
- ・字数制限をかけたり、根拠を明確にするなど、条件付きの文章を書かせることによって、自己の考えを整理し、正確で端的な文章表現をする力を付けさせることが効果的です。
- ・文章表現を磨くために、生徒相互に作文を交流、評価したり、推こうさせたりすることが重要です。
- ・キーワードに注意して読み取ったり、概要をつかませたりすることにより、おおまかに文意をつかむ力を付けることも学習効果があります。

(2) 数学について

宇治田原町の生徒の数学の正答率は全国平均を下回っています。学習指導要領の内容別に見て、前回の調査において全国平均を下回った「数学的な技能」の得点差はわずかとなったのですが、「数学的な見方や考え方」と「数量や図形についての知識・理解」の問題での失点が影響しました。



ア 子どもたちに付けたい力

- ・数学的な事象について、根拠に基づいて見たり、考えたりする力
- ・図形の定義や特徴の理解など基礎基本の知識を定着させる力
- ・グラフや図表の特徴や特性を理解し、情報を的確に読み取る力

イ 学力向上のための手立ての例

- ・問題を解くに当たって、抽象的な問題提示ではイメージが湧きにくく、何を求められているのかわかりにくいことがあります。そのため生活に根差した設問に変えたり、具体物を使った資料提示をしたりするなどの工夫が必要となってきます。
- ・生徒の興味や関心を高めたり、生徒の習熟度に応じたりするために、様々なパターンの問題や多種多様な課題を用意し、生徒自らが進んで問題に取り組むような環境を整えることが求められます。
- ・数学的な法則や定理に基づいて解題するおもしろさを味わわせたり、数理的な処理の楽しさなどを感じさせたりすることによって、数学のよさを味わいながら積極的に数学に関わろうとする気持ちを育てる指導が必要です。
- ・数学においても論理的な説明が求められる問題も多く、論理的思考力や文章表現力等が求められます。そのため授業においては、口頭だけでなくレポート報告など書く活動を取り入れることが重要となってきます。

上記文中の表現の基準は、下記のとおりです。

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 「上回る」 | : 全国平均正答率より + 6 点以上 |
| 「やや上回る」 | : 全国平均正答率より + 3 点以上 ~ + 6 点未満 |
| 「ほぼ同じ」 | : 全国平均正答率の + 3 点未満 ~ - 3 点未満 |
| 「やや下回る」 | : 全国平均正答率より - 3 点以下 ~ - 6 点未満 |
| 「下回る」 | : 全国平均正答率より - 6 点以下 |



3 学力向上に向けて

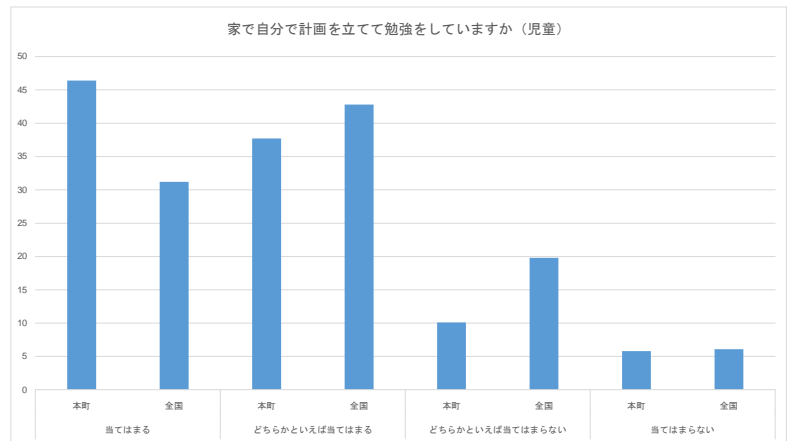
教育委員会並びに各学校において、各教科における学力の定着状況についてさらに把握・分析し、系統性を考慮しながら学校全体で授業改善にどのように取り組むか研究を進めてまいります。同時に各校において、個々の児童生徒が「どの問題を得意としているか」、「どの問題でどのように間違ったか」という点に着目し、一人一人の子どもに付けたい力を明確にししながら、「強みを伸ばし、弱点を克服するためにどのように指導していくか」という視点を持って指導を行ってまいります。

授業改善を進めるに当たって、教育委員会は各学校と共通認識を持ち、教職員研修の充実や学力充実教員等の配置、教材教具や設備など教育環境の整備に努めるなど、学力向上に向けた取組をさらに推進してまいります。

4 本町児童生徒の意識の状況と学力との関係

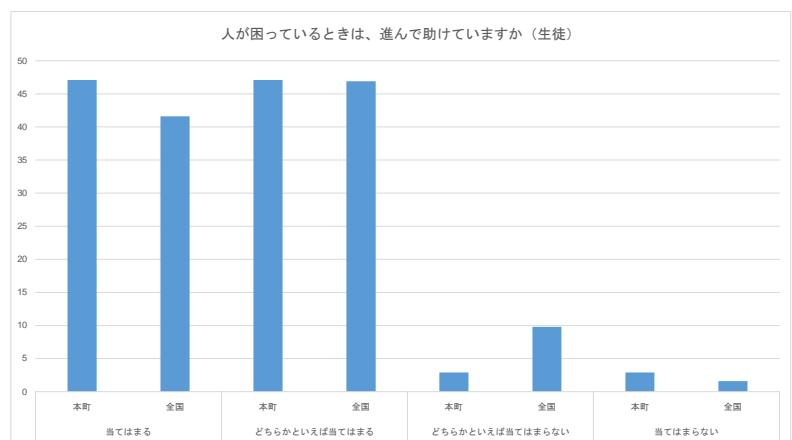
本年度も学力調査とともに児童生徒の質問紙調査を行いました。

本町の小学生は、児童の意識と問題の正答率が比例関係にあるとされる「学校の授業時間以外の勉強時間が長い児童の割合」や「土曜日や日曜日に勉強する時間が長い児童の割合」が高く、自主的な学習習慣が身に付いている児童が多くいました。このことは、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問に対しても「よくしている」と答えた児童が多かったことにも表れています。また、本町の中学生は、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対して、



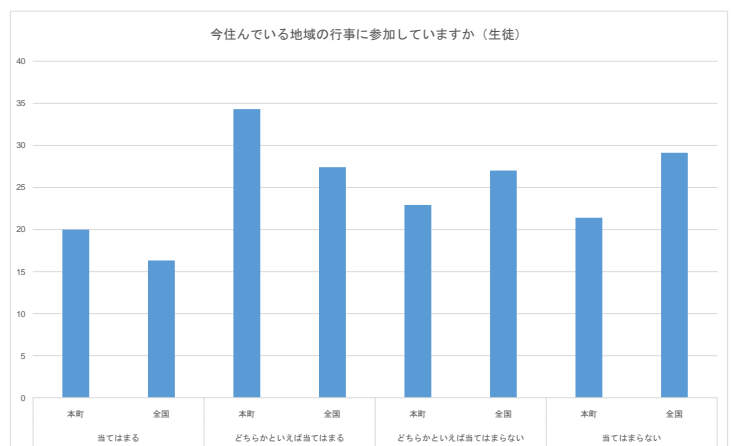
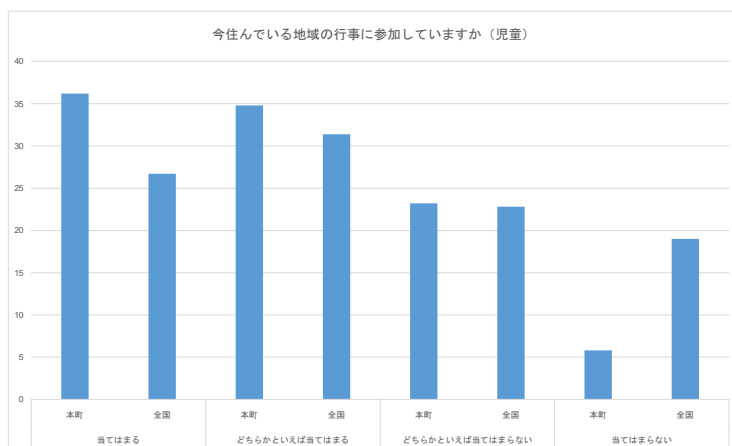
「好き」、「分かる」と回答した生徒が多く、数学への関心や学習意欲、学習についての達成感などが高い生徒が多かったことが分かります。小学生では、課題の解決に向けて、自ら考え、自分の意見を持ち、話し合いや発表の活動を行うことに、興味や関心を持つ児童も多くいました。中学生では、「分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」ことのできる生徒の割合が多く、客観的に自己を評価し、学習の見通しを持って取り組もうとする生徒が多かったことが分かります。

一方、生活において、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにする」という意思の強い児童や「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守る」など規範意識が強く、自制心を持つ生徒が多くいました。



また、小・中学生ともに「人が困っているときは、進んで助ける」との回答も多く、思いやりややさしさの気持ちを持つ子どもたちが多くいることは特筆すべきと考えます。

また、令和元年度の質問紙調査に引き続いて、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に対して肯定的な回答のポイントが高いことから、学校や保護者のみなさんだけでなく、地域ぐるみで子どもたちに関わってくださっている地域の様子が窺えました。



5 家庭にお願いしたいポイント

今回の調査結果から、「生活習慣の確立」、「家庭でのコミュニケーションの充実」、「家庭での学習習慣の定着」、「学習環境の整備」などが子どもたちの学力向上に大きな影響を及ぼしていることがわかりました。

(1) 生活習慣の確立

ア 決まった時間に起床就寝したり、食事をきちんと取ったりするなど規則正しい生活を心掛けさせましょう。

イ テレビ視聴やスマートフォン、パソコンなどの使用のルールを、家庭で決めるようにしましょう。(パソコンやタブレット、スマートフォンなどは、いじめ事象や性被害の要因ともなります。)

(2) 家庭でのコミュニケーションの充実

ア 食事などのだんらんの場を大切にし、学校での出来事や地域・社会で起きている出来事などを話題にして話し合いの機会をつくるようにしましょう。

イ 心を通じ合わせるために、子どもと話をするときは、「目を見て、じっくり聞き、きちんと応える」よう心掛けましょう。

(3) 家庭での学習習慣の定着

ア 学習する時間や場所などを決め、継続して勉強させることで、学習を習慣化させましょう。

イ 集中して学習するため「テレビを見ながら」「スマホを横に置きながら」などの「ながら学習」にならないように気を付けさせましょう。(勉強に集中しやすいように気づかう、ご家族のみなさんの配慮も大切だと考えます。)

(4) 学習環境の整備

ア 子どもに本の紹介をしたり、読み聞かせをしたりするなど、小さいころから子どもが本に親しむ工夫が大切です。

イ 積み木や迷路、ジグソーパズル等の知育玩具や、しりとり遊びやクロスワードなど言語を増やす遊びを、意図的に取り入れましょう。

ウ インターネットなどスピーディに知識を獲得するツールだけでなく、様々な知識に触れ合える辞典や事典などを子どもの身近に置きましょう。

エ 小学校低学年から、買い物に行った時などに支払いの予測や釣銭の計算等をする習慣を付けさせましょう。

オ 京都に住む利点を生かして、社寺等の歴史的建造物や博物館等の文化施設を訪ねて、「実際に実物を見て学ぶ体験」を大切にしましょう。

カ 自分の将来像を描かせ、その実現のために努力するようはたらきかけ、応援することも家族の大切な役割と考えます。

